

未治療の先天性心疾患（非チアノーゼ性）

C. 部分肺静脈還流異常症

1. 疾患名ならびに病態

未治療の先天性心疾患（非チアノーゼ性）

C. 部分肺静脈還流異常症

本来は左心房に還流する肺静脈の一部が、右心房や体静脈系に還流する状態である。血行動態は心房中隔欠損症に類似する。

2. 小児期における一般的な診療

◇ 主な症状

心房中隔欠損症に準ずる。小児期は通常、無症状である。

◇ 診断の時期と検査法

乳児健診での心雑音や学校心臓検診での心電図異常を契機に診断されることが多い。胸部 X 線、心電図、心エコー、造影 CT、必要に応じて心臓 MRI を行う。

◇ 経過観察のための検査法

胸部 X 線、心電図、心エコー、造影 CT、必要に応じて心臓 MRI を行う。

◇ 治療法

右心系（右心房・右心室）の容量負荷所見があれば治療適応である。外科的修復術を行う。

◇ 合併症および障がいとその対応

心房中隔欠損症を合併していることが多い。

3. 成人期以降も継続すべき診療

◇ 移行・転科の時期のポイント

心房中隔欠損症に準ずる。

◇ 成人期の診療の概要

心房中隔欠損症に準ずる。

4. 成人期の課題

◇ 医学的問題

心房中隔欠損症に準ずる。

◇ 生殖の問題

心房中隔欠損症に準ずる。

◇ 社会的問題

疾患特有の問題はない。

5. 社会支援

◇ 医療費助成

病状によるが、特別な支援を要する疾患は少ないため、適応となるかどうかは個別に相談する必要がある。

〔文責〕

日本小児循環器学会移行医療委員会